

「ゼロカーボン北海道」に係る 道民意識調査結果

2022年11月
環境生活部 ゼロカーボン推進局
ゼロカーボン戦略課

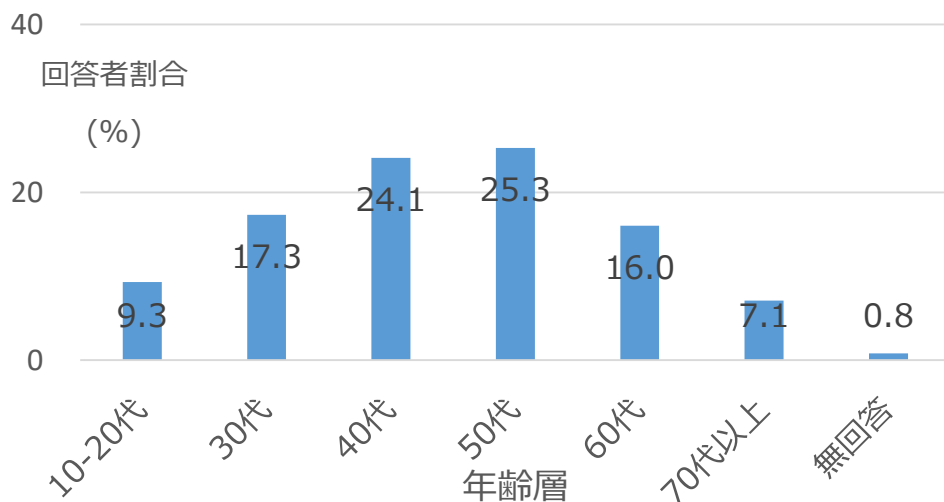
1 調査目的

ゼロカーボン北海道の取組を進めるため、道民の認知度や取組を把握し、各種施策に反映させることを目的に実施。

2 調査概要

- ✓ 調査方法：郵送配布、郵送回収およびWeb(スマホ)による回答
- ✓ 調査期間：令和4年(2022年)9月
- ✓ 調査対象：道内に居住する満18歳以上の個人（層化二段無作為抽出法）
- ✓ 有効回収数：860（郵送回答547、Web回答313）
- ✓ 回答者情報：

回答者年齢構成 n=860



回答者居住エリア構成 n=860



※以降、パーセンテージを示すデータは小数点第2位を四捨五入し表記する

3 調査結果のポイント

○ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素という言葉の意味を「知っている」「ある程度知っている」の回答は52.6%

「言葉の意味を知っている」が18.5%、「言葉の意味をある程度知っている」が34.1%。これらの回答割合は、60代、70代以上では約70%だが、18～29歳では約25%であり、若年層ほど浸透していない傾向。

(参考 4～5月の調査：「ゼロカーボン、脱炭素、カーボンニュートラル」という言葉を「知っている」との回答は72.5%)

○北海道の削減目標値は57.9%の方に認知されていない

北海道の削減目標値は、全体で「知っている」が9.8%、「聞いたことはある」が32.0%、「知らない」が57.9%で、約6割の方に認知されていない。特に、18～29歳では75.0%が「知らない」と回答しており、若年層への浸透は低い傾向。

(参考 4～5月の調査：「知っている」33.4%、「聞いたことはある」31.4%、「知らない」34.8%)

○取組を増やすには「行動を具体的に知ること」と「ゼロカーボンの目的がもっと浸透すること」が必要

ゼロカーボンにつながる行動を増やすためには、「行動を具体的に知ること」が52.8%、「目的がもっと浸透する」が46.0%。

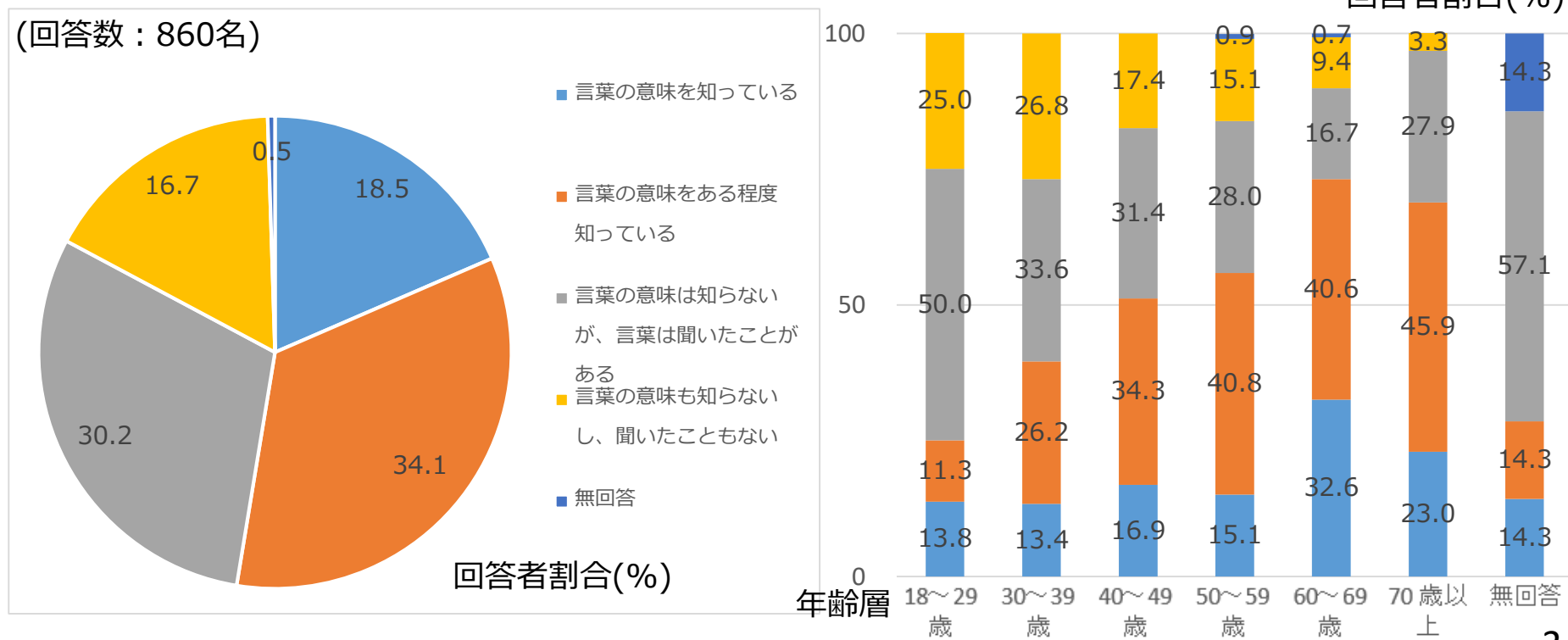
(参考 4～5月の調査：「行動を具体的に知る」59.6%、「目的がもっと浸透する」42.6%。)

問1 ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素(以下、「ゼロカーボン」と言う)という言葉をご存じですか、また、どの程度ご存じですか。

・ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素という言葉の認知度

「言葉の意味を知っている」18.5%、「言葉の意味をある程度知っている」34.1%。

これらの回答割合を年齢層別に見ると60代、70代以上では約70%だが、18～29歳では約25%であり、**若年層ほど浸透していない傾向。**

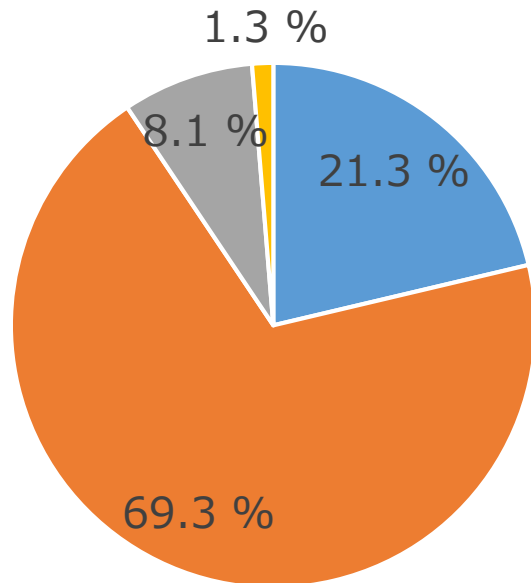


問2 ゼロカーボンは必ず達成すべきと考えますか。

・ゼロカーボンは必ず達成すべきと考えるか

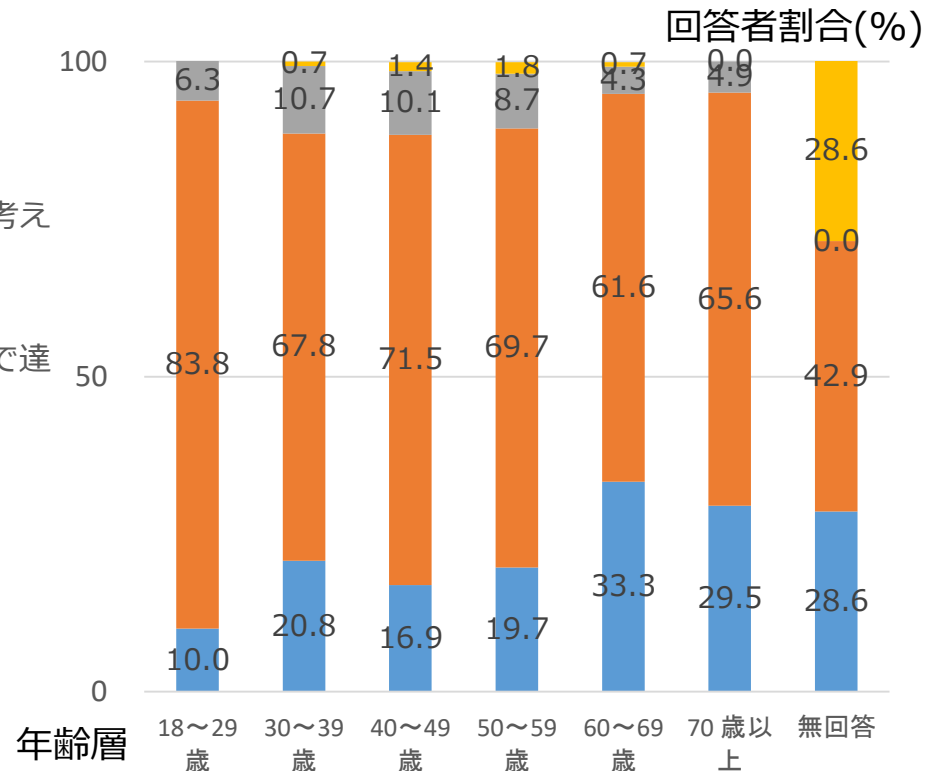
「経済を優先した中で達成すべきと考える」が69.3%を占めて多数派。
「必ず達成すべきと考える」と合わせると、90.6%の方がゼロカーボンは達成すべきと認識。

(回答数：860名)



回答者割合(%)

- 必ず達成すべきと考える
- 経済を優先した中で達成すべきと考える
- そうは思わない
- 無回答

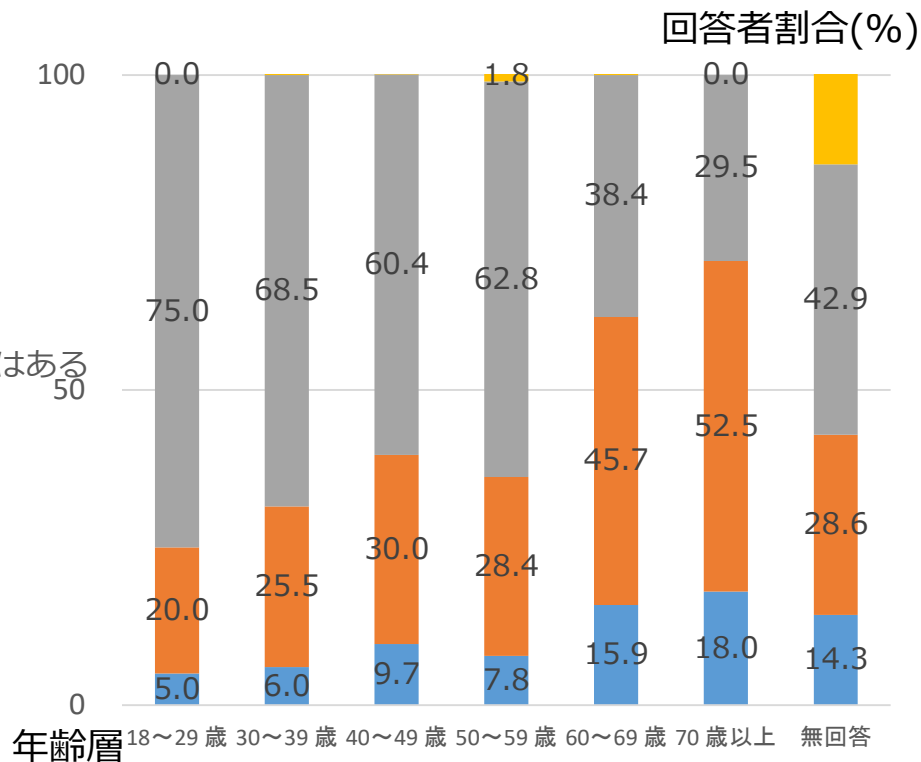
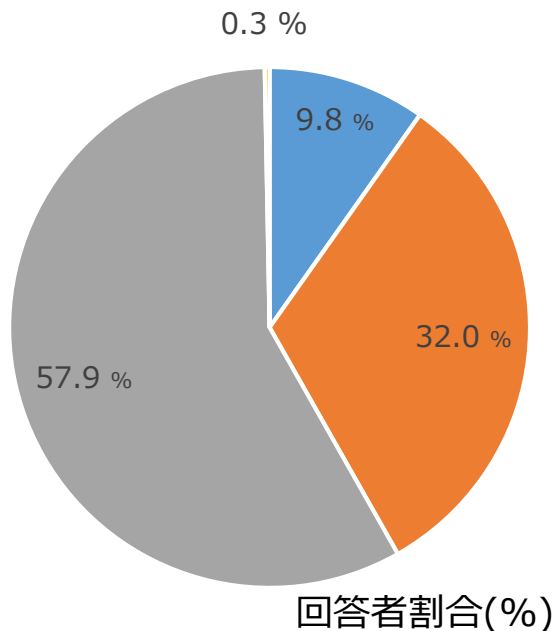


問3 北海道は2050年にゼロカーボンを目指し、2030年度に温室効果ガス48%削減(2013年度対比)を目標としたことを知っていますか。

・北海道の削減目標の認知度

全体における認知度は、「知らない」と答えた方が57.9%で最も高かった。特に、18～29歳では75.0%が「知らない」と回答しており、若年層への浸透は低い傾向が読み取れる。

全体(回答数 : 860名)

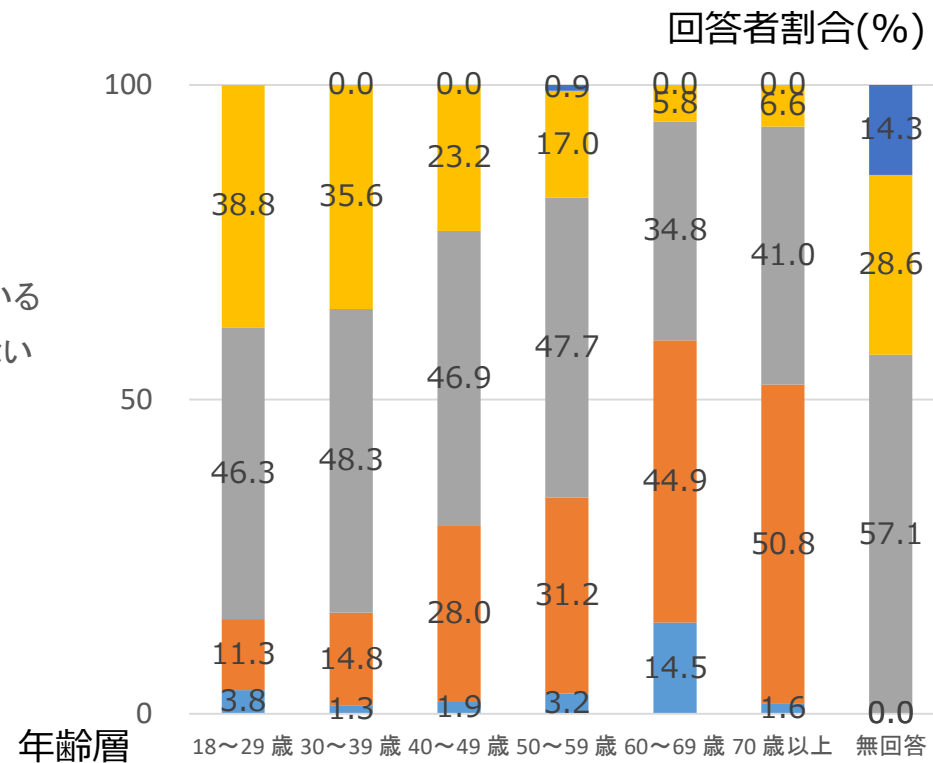
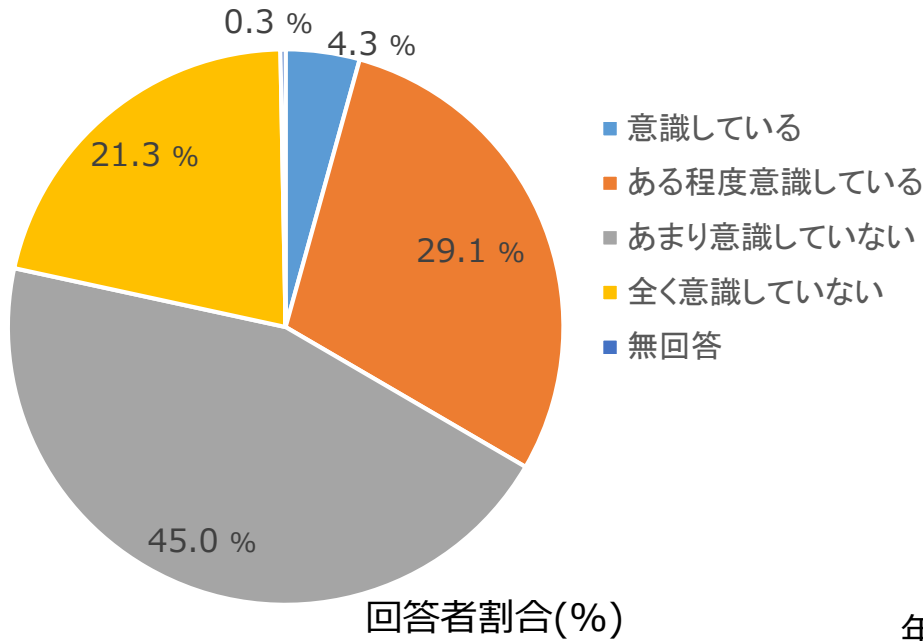


問4 あなたは暮らしの中でゼロカーボンを意識した行動をしていますか。

・ゼロカーボンを意識した行動

全体では「意識している」と「ある程度意識している」は合わせて33.4%、「あまり意識していない」と「全く意識していない」は合わせて66.3%。

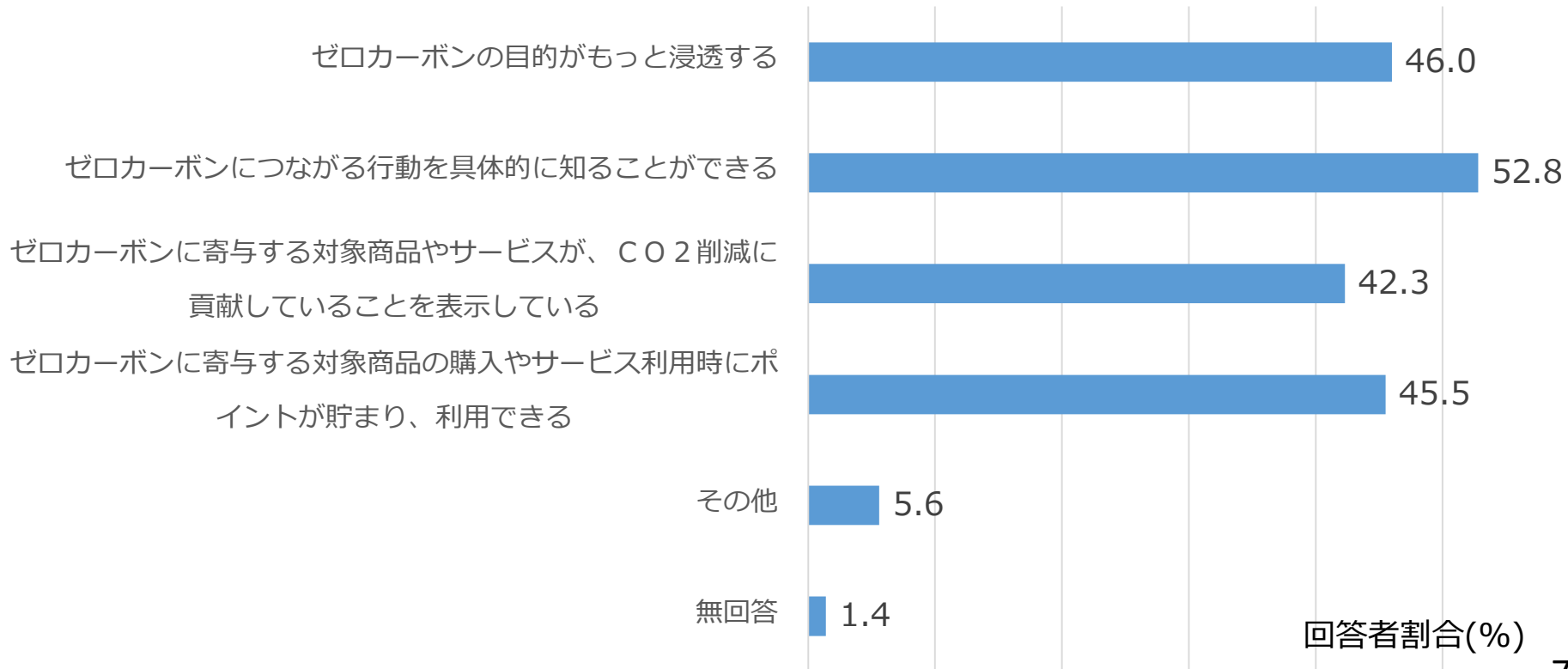
回答数：860名



問5 どうしたらゼロカーボンに繋がる行動が増えると思いますか。(複数回答可)



- 上位3項目
- ・ゼロカーボンに繋がる行動を具体的に知ることができる(52.8%)
 - ・ゼロカーボンの目的がもっと浸透する(46.0%)
 - ・ゼロカーボンに寄与する対象商品の購入やサービス利用時にポイントが貯まり、利用できる(45.5%)



問6 地球温暖化対策として、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボン」が達成されることでどのような効果(影響)があると思いますか。(複数回答可)

気候変動に対する効果を約半数の方が予想するが、それ以外の効果(影響)については、理解が得られていなかったり、認知度が低い。

上位3項目

- ・ 豪雨や猛吹雪の回数が減少する(52.6%)
- ・ 猛暑日が減少する(51.5%)
- ・ 様々な商品価格が値上げされる(23.8%)



1 調査目的

「ゼロカーボン北海道」の実現に向け、道民の方々のゼロカーボンに対する認知度や取組を把握するため意識調査を実施した。

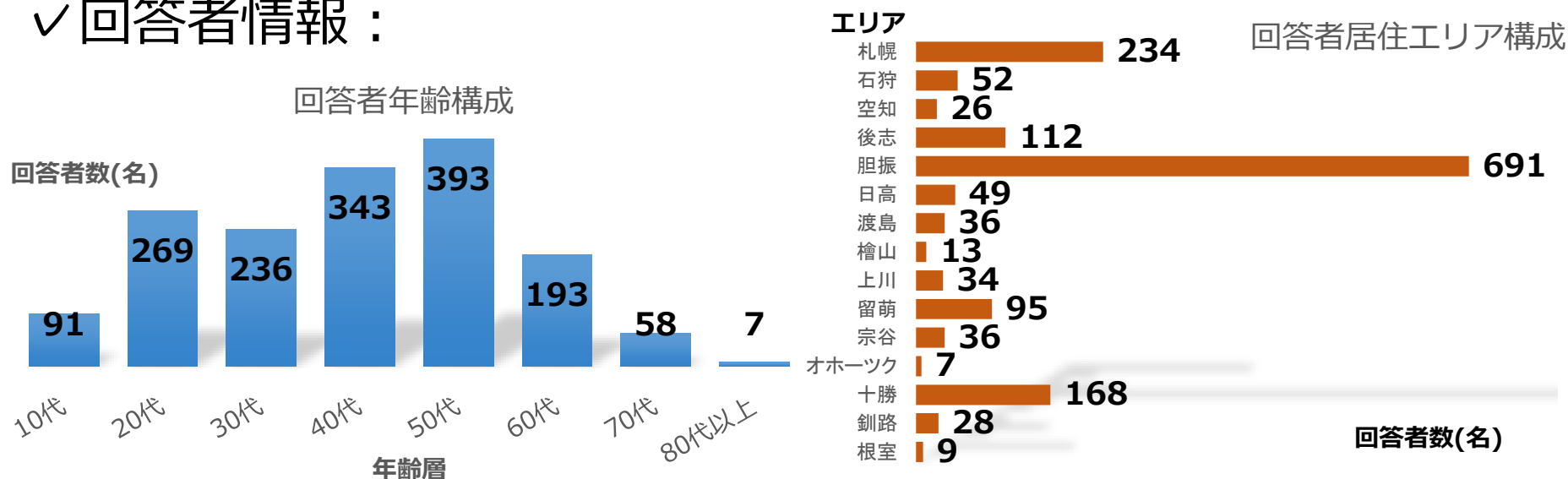
2 調査概要

✓ 調査方法：インターネットによる簡易調査および街頭調査

✓ 調査期間：令和4年(2022年)4月26日(火)～5月26日(木)

✓ 調査対象者：道内在住の10代以上の男女 計1,590名

✓ 回答者情報：



※以降、パーセンテージを示すデータは小数点第2位を四捨五入し表記する

(参考：4～5月の簡易調査)

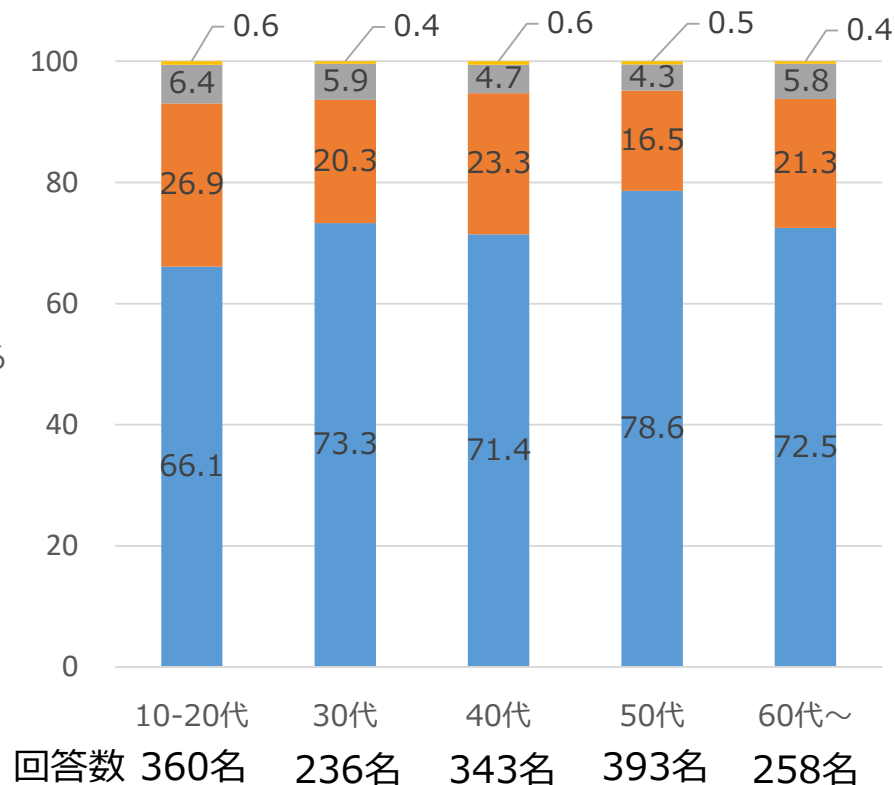
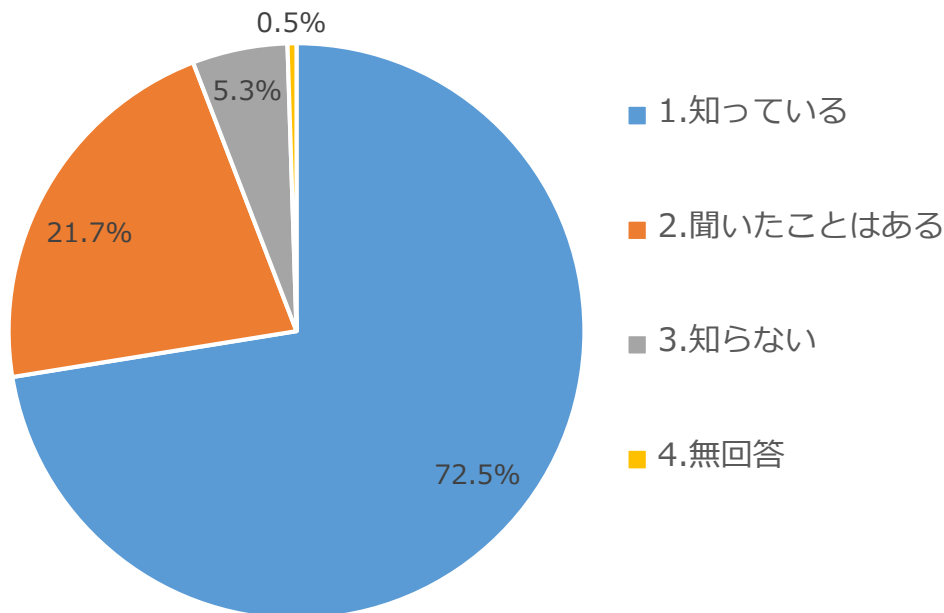
問1 ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素(以下、「ゼロカーボン」と言う)という言葉を知っていますか。

・ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素という言葉の認知度

「知っている」72.5%と「聞いたことはある」21.7%。

「知っている」という回答の最大が50代の78.6%で、最少は10～20代の66.1%となった。どの年齢においても、比較的高い水準で浸透していることがうかがえる。

(回答数：1,590名)

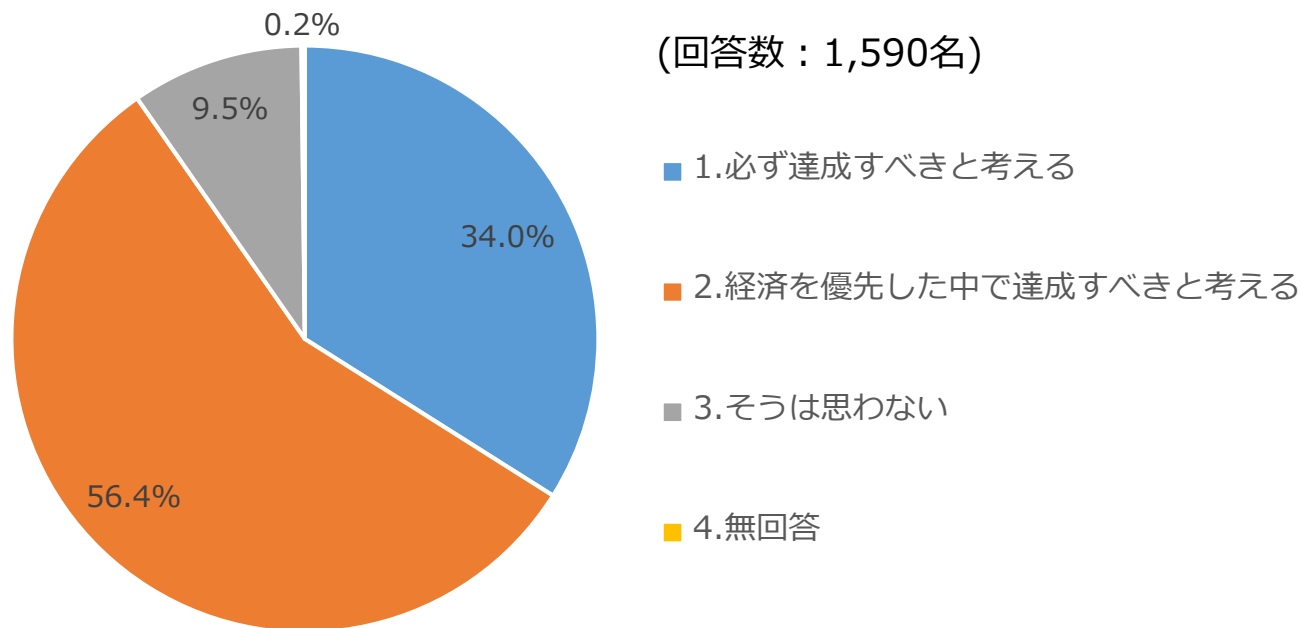


(参考：4～5月の簡易調査)

問3 ゼロカーボンは必ず達成すべきと考えますか。

- ・ゼロカーボンは必ず達成すべきと考えるか

「経済優先で達成すべき」が56.4%を占めて多数派。



(参考：4～5月の簡易調査)

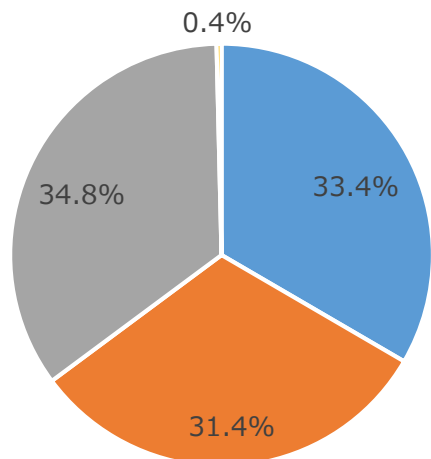
問4 北海道は2050年にゼロカーボンを目指し、2030年度に温室効果ガス48%削減(2013年度対比)を目標としたことを知っていますか。

・北海道の削減目標の認知度

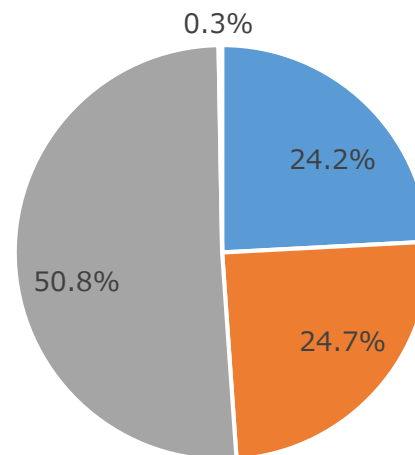
全体における認知度は「知っている」33.4%、「聞いたことはある」31.4%、「知らない」34.8%で、**三分した**。

ただし、10～20代では50.8%が「知らない」と回答しており、**若年層への浸透は低い傾向**が読み取れる。

全体(回答数：1,590名)



10～20代(回答数：360名)



- 1. 知っている
- 2. 聞いたことはある
- 3. 知らない
- 4. 無回答

(参考：4～5月の簡易調査)

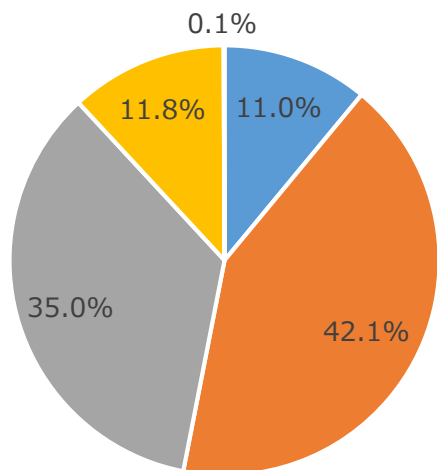
問5 あなたは暮らしの中でゼロカーボンを意識した行動をしていますか。

・ゼロカーボンを意識した行動

全体では「意識している」+「ある程度意識している」と「あまり意識していない」+「全く意識していない」の割合はおおよそ半々。

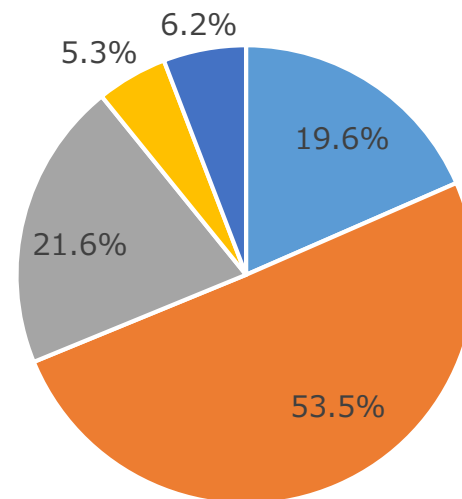
特に60代～では「意識している」+「ある程度意識している」が73.1%を占め、行動も伴った方が多いことがうかがえる。

全体(回答数：1,590名)



- 1.意識している
- 2.ある程度意識している
- 3.あまり意識していない
- 4.全く意識していない
- 5.無回答

60代～(回答数：245名)

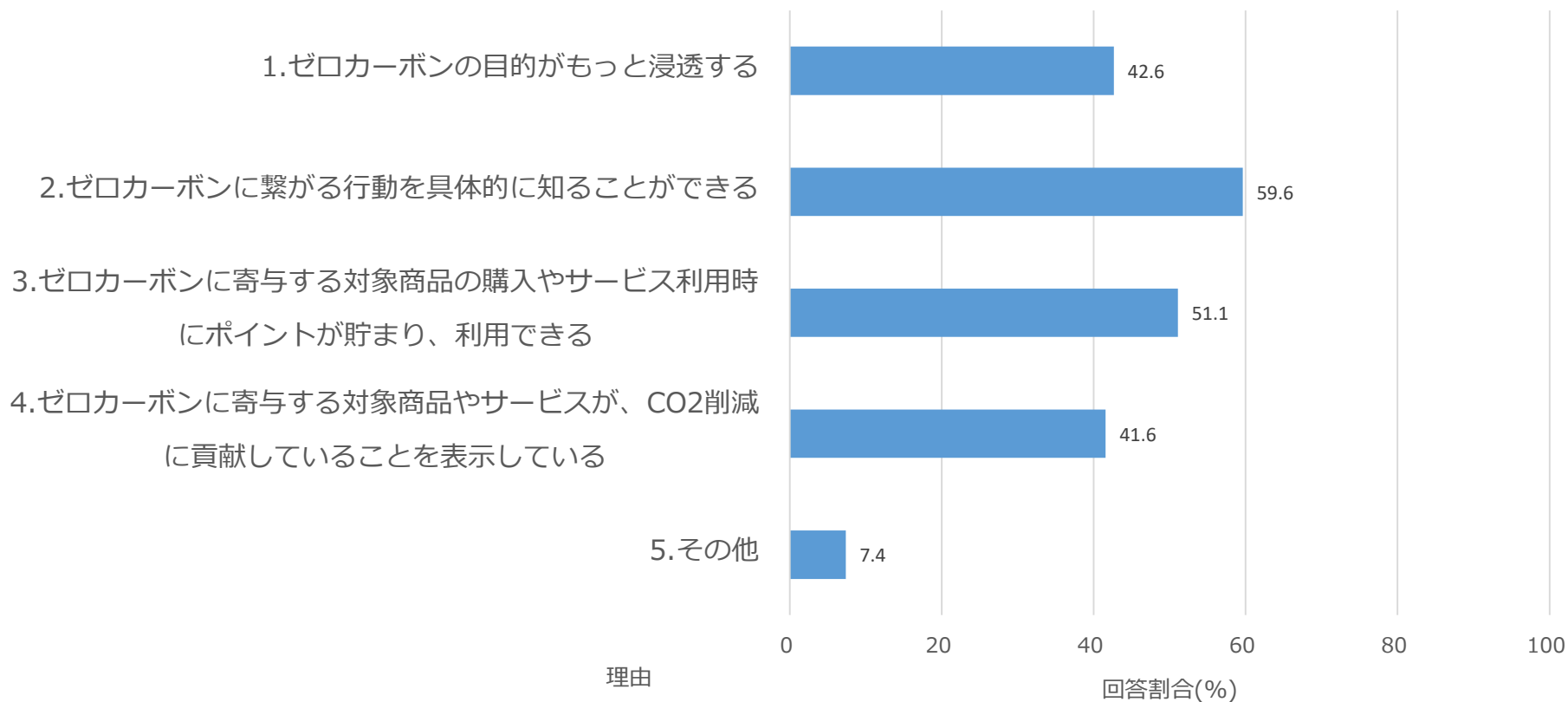


(参考：4～5月の簡易調査)

問8 どうしたらゼロカーボンに繋がる行動が増えると思いますか。(複数回答可)

上位3項目

- ・ゼロカーボンに繋がる行動を具体的に知ることができる(59.6%)
- ・ゼロカーボンに寄与する対象商品の購入やサービス利用時にポイントが貯まり、利用できる(51.1%)
- ・ゼロカーボンの目的がもっと浸透する(42.6%)



(参考：4～5月の簡易調査)

問9 ゼロカーボンが達成されることでどのような効果(影響)があると思いますか。(複数回答可)

気候変動に対する効果を約半数の方が予想するが、それ以外の効果(影響)については、理解が得られていなかったり、認知度が低い。

上位3項目

- ・ 猛暑日が減少する(51.4%)
- ・ 豪雨や猛吹雪の回数が減少する(44.8%)
- ・ 様々な商品価格が値上げされる(27%)

